

## 看護学生の達成動機に関する研究 (第2報)

— 2 大学間の意識構造の差 —

松永保子\*・坂本知子\*\*・森田敏子\*\*\*

松田好美\*\*\*\*・内海 滉\*\*\*\*\*

### Studies on the Achievement Motive of Nursing Students in College (2nd Report)

— On the Difference of the Structures  
of the Consciousness between Two Colleges' Students —

Yasuko MATSUNAGA\*, Tomoko SAKAMOTO\*\*, Toshiko MORITA\*\*\*

Yoshimi MATSUDA\*\*\*\*, Ko UTSUMI\*\*\*\*\*

**Abstract :** The Achievement Motive was studied of students of the nursing courses in A and Y college. The score of 23 items with 7 points in Lickert scale was analyzed by the varimax rotation, extracting 5 factors in each college. The relationships between these factor scores and the background of the students were compared.

As the results, in expecting success factor of Y college, the higher score was presented, the less challenging attitude as well as less endurance was observed. Whereas in hoping happiness in self-prouded factor of A college, the higher score was presented, the more attitude with pride was observed. Also, as to driving performance for self-development factor, the higher score was presented, the more affirmativeness of making challenge was presented, with the exception for those whose inner individuality conflicted with outer world. The students in Y college, among whose family members nurses were present, showed the prouding attitude, while not observed in A college.

**Key words :** nursing student, achievement motive, nursing education, background of nursing student

### はじめに

達成動機は、1938にMurray<sup>1)</sup>により人間の「社会的動機」の一つとしてとりあげられ、McClelland

---

\* 山形県立保健医療短期大学看護学科  
〒990-2212 山形市上柳260番地  
Department of Nursing, Yamagata School of Health Science  
260 Kamiyanagi, Yamagata-shi, 990-2212 Japan  
\*\* 足利短期大学看護学科  
Department of Nursing, Ashikaga Junior College  
\*\*\* 福井医科大学医学部看護学科  
School of Nursing, Faculty of Medicine, Fukui Medical University  
\*\*\*\* 愛知県立看護大学  
Aichi Prefectural College of Nursing & Health  
\*\*\*\*\* 千葉大学  
Chiba University

らの「The Achievement Motive」<sup>2)</sup>が1953年に出版されてから本格的に研究が始められた。以来、Murrayの概念を受け継ぎ、従来の達成動機概念には、「社会的・文化的に価値があるとされたものを達成すること」が大きな要素として存在している。

この達成動機を測定する方法として、まずMcClellandやAtkinson, Lowellら<sup>3-5)</sup>が、投影法での測定を開発した。これには、主に、Murrayらがパーソナリティを研究するための道具として開発したTAT(絵画統覚検査)やTATに準じて空想物語を作らせる不完全物語法を用いている。

客観的尺度としては、Bending<sup>6)</sup>が質問紙の開発

Table 1 達成動機測定項目

1. いつも何か目標を持っていたい
2. ものごとは他の人よりうまくやりたい
3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい
4. 人と競争することより、人とくらべることができないようなことをして自分をいかしたい
5. 他人と競争して勝つとうれしい
6. ちょっとした工夫をすることが好きだ
7. 人に勝つことより、自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う
8. みんなに喜んでもらえるすばらしいことをしたい
9. 競争相手に負けるのはくやしい
10. 何でも手がけたことには最善をつくしたい
11. どうしても私は人より優れていたいと思う
12. 何か小さなことでも自分にしかできないことをしてみたいと思う
13. 勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けないためだ
14. 結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい
15. 今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ
16. いろいろなことを学んで自分を深めたい
17. 就職する会社は、社会で高く評価される場所を選びたい
18. 成功するということは、名誉や地位を得ることだ
19. 今日一日何をしようかと考えることはたのしい
20. 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う
21. 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う
22. 世に出て成功したいと強く願っている
23. こういうことがしたいなあと思えるとわくわくする

を試みた。これは、投影法による測定の信頼性が一般に低いということと、質問紙の方が簡単であるという経済的理由による。質問紙法による測定は、その信頼性はかなり高いが、項目選定の基準がまちまちであるなど、妥当性についての問題があることが指摘されている。最近の達成動機の研究においては、目的に応じて投影法と質問紙法の両方が使われている。

第1報<sup>7)</sup>では、東北地方Y短大看護科の学生と関東地方北部A短大看護科の学生の達成動機を測定し、バリマックス回転による因子分析で因子を抽出した後に、それぞれの因子構造を比較・検討した。本報では、教育効果が高まる教育方法や指導方法を開発するべく、各因子得点と学生の背景との関連を調べ、学生の意識や態度を明らかにした。

## 方 法

### 1. 研究対象および時期

1998年5月に、Y短大看護科の1年次学生79名とA短大看護科の1年次学生40名を対象に行った。学生には、この調査が研究のためのものであり、個人的な情報は一切外部に漏れないことを説明して協力を求め、同意を得た。

### 2. 測定方法

双極7件法の「達成動機測定尺度」(Table 1)

を用いて、達成動機の測定を行った。この測定尺度は、Bendingの質問紙<sup>6)</sup>を堀野・森が翻訳・加筆した12項目に、さらに11項目を加えて開発・作成したもの<sup>8-9)</sup>である。この尺度と学生の背景や看護職に関する項目で構成した21項目のアンケート(Table 2)の調査を実施した。

### 3. 分析方法

達成動機測定尺度の23項目は7段階に数量化して入力し、主成分分析の後、バリマックス回転による因子分析を行った。

アンケートの中からは、看護に関連し、学生の達成動機によってかなり左右されると考えられる項目、「Q8. あなたの家族の中に看護職はいますか」「Q9. あなたはこれまでに家族が病気になった時、看護をした経験がありますか」「Q16. 現在、あなたは看護学生であるということに誇りをもっていますか」「Q17. 今、あなたは、看護の仕事はあなたにとってやりがいのある仕事だと思っていますか」「Q18. 今、あなたが、一般の高校生から看護職になりたいのだがと相談されたら、なることをすすめますか」「Q19. 看護職は、一般の仕事と違い尊い仕事だという意見がありますが、これはあなたの考えとどの程度一致していますか」

「Q21. あなたは看護職を一生なんらかの形で続けると思っていますか」の7項目を選んだ。

これらの項目を、明らかにそうであると示して

Table 2 アンケート

Q1. 年齢 ( ) 歳

Q2. 同居家族 ( ) 人

Q3. 同胞数 あなたも含めて ( ) 人

Q4. 祖父母の同居の有無  
1. あり 2. なし

Q5. 現在の住居  
1. 自宅 2. 自宅外

Q6. あなたが高校を卒業したとき, あなたのお父さんは仕事をなさっていましたか。  
1. 仕事をしていた 2. 仕事をしていたが 3. 仕事をしなかった  
3. 既に死亡  
次の問へ ←

その仕事は, この中のどれにあたるでしょうか。

1. 農林漁業
2. 自営業主, 中小企業主
3. 専門・技術的職業 (医師, 技術者, 教師など)
4. 管理的職業 (会社や官庁の課長, 部長, 重役など)
5. 大企業 (1,000人以上) のサラリーマン (事務やセールスなど)
6. 中小企業 (1,000人未満) のサラリーマン (事務やセールスなど)
7. 大企業 (1,000人以上) の工員
8. 中小企業 (1,000人未満) の工員, 販売員
9. その他 ( )

Q7. あなたのお母さんは, 結婚後, 仕事をなさっていましたか。  
1. 結婚後全く仕事をしなかった。  
2. 結婚後しばらくの間は仕事をしていたが, その後はやめている。  
3. 子供たちがいる程度大きくなってから再び仕事についた。  
4. 結婚後ずっと仕事を続けている。

Q8. あなたの家族の中に看護職はいますか。  
1. いる (続柄: ) 2. いない

Q9. あなたはこれまでに家族が病気になった時, 看護をした経験がありますか。  
1. ある 2. ない

Q10. あなたの高校の設置主体は次のうちどこにあたりますか。  
1. 国・公立 2. 私立

Q11. あなたが看護短大を受験することを話したとき, あなたのご両親はどのような反応をしましたか。  
賛成 どちらともいえない 反対

父	1	2	3
母	1	2	3

Q12. あなたが看護の道を選択した理由は次のうちどれですか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。  
1. 一生役立つ知識・技術の修得のため  
2. 仕事を通しての人的成長のため  
3. 社会への貢献  
4. 社会的必要性を感じて  
5. 精神的・経済的自立のため  
6. 自己の興味・適性からみて  
7. あこがれ  
8. 社会的評価・地位を得るため  
9. 家族やまわりの人の面倒をみたい  
10. その他 (具体的に )

Q13. あなたは看護短大入学時, どのような職種に就きたいと考えていましたか。  
1. 看護婦 4. 養護教諭  
2. 助産婦 5. 看護教員  
3. 保健婦

6. その他の職種(具体的に )  
7. 職に就くつもりはない

Q14. その志望は入学後も変化していませんか。  
1. 変化していない → 次の問へ  
2. 変化した  
\* それはどのような変化ですか ( )  
\* 何かきっかけがありましたか (具体的に )

Q15. 現在振り返ってみて, 高校を卒業したときのあなたの進路選択はどうであったと思いますか。  
1. 間違っていなかったと思う  
2. まあ大した間違いはなかったと思う  
3. わからない  
4. いろいろと問題があったようだ  
5. 間違っていたと思う

Q16. 現在, あなたは看護学生であるということに誇りをもっていますか。  
1. 誇りをもっている  
2. どちらともいえない  
3. 誇りをもっていない

Q17. 今, あなたは, 看護の仕事はあなたにとってやりがいのある仕事だと思っていますか。  
1. とてもやりがいがある  
2. まあやりがいがある  
3. どちらともいえない (わからない)  
4. あまりやりがいがない  
5. 全くやりがいがない

Q18. 今, あなたが, 一般の高校生から「看護職になりたいのだが」と相談されたら, なることをすすめますか。  
1. 強くすすめる  
2. すすめる  
3. どちらともいえない (わからない)  
4. すすめない  
5. 強く反対する

Q19. 「看護職は, 一般の仕事と違い尊い仕事だ」という意見がありますが, これはあなたの考えとどの程度一致していますか。  
1. ほぼ一致している  
2. どちらともいえない  
3. ほとんど一致していない

Q20. 女性が職業をもち外で働くことについて世間にはいろいろな意見があります。下記の意見のうち, あなたの意見に一番近いのはどれですか。  
1. 女性は職業を持たない方がよい  
2. 結婚するまで職を持った方がよい  
3. 子供ができるまで職を持った方がよい  
4. 子供ができて可能な限り続けた方がよい  
5. 子供が小さい間はやめて, ある程度大きくなってから再就職する方がよい  
6. わからない  
7. その他 (その時の状態による)

Q21. 今, あなたは看護職を一生なんらかの形で続けると思っていますか。  
1. かならず続ける  
2. 続けたいとは思っている  
3. どちらともいえない (わからない)  
4. できればやめたい  
5. やめたい

Table 3 因子負荷量 (Y短大)

項目	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>3</sub>	f <sub>4</sub>	f <sub>5</sub>	因子名
18. 成功するということは, 名誉や地位を得ることだ	0.79	-0.03	0.03	-0.13	-0.23	成功期待因子
17. 就職する会社は, 社会で高く評価される場所を選びたい	0.77	0.00	0.03	0.06	-0.21	
20. 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う	0.76	-0.06	0.14	0.18	0.12	
13. 勉強や仕事を努力するのは, 他人に負けないためだ	0.63	0.06	0.35	-0.27	0.12	
22. 世に出て成功したいと強く願っている	0.61	0.22	0.29	0.04	0.31	
15. 今の社会では, 強いものが出世し, 勝ち抜くものだ	0.60	-0.03	0.08	-0.11	-0.01	
3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい	-0.00	0.68	0.01	0.31	-0.00	自己個性への愛着因子
4. 人と競争することより, 人とくらべることができないようなことをして自分をいかしたい	-0.04	0.63	0.16	-0.26	0.01	
6. ちょっとした工夫をすることが好きだ	0.16	0.55	-0.23	0.09	0.06	
12. 何か小さなことでも自分にしかできないことをしてみたいと思う	-0.02	0.51	0.11	0.06	0.43	
5. 他人と競争して勝つとうれしい	0.03	-0.05	0.78	0.06	-0.03	自我優越因子
9. 競争相手に負けるのはくやしい	0.06	-0.23	0.75	0.11	0.26	
11. どうしても私は人より優れていたいと思う	0.34	0.16	0.73	-0.20	0.00	
2. ものごとは他の人よりうまくやりたい	0.34	0.13	0.68	0.05	0.03	
19. 今日一日何をしようかと考えることはたのしい	0.00	-0.07	-0.03	0.74	0.07	社会的幸福願望因子
8. みんなに喜んでもらえる素晴らしいことをしたい	-0.22	0.13	0.30	0.72	0.09	
23. こういうことがしたいなあと思うとわくわくする	0.29	-0.03	0.00	0.62	0.20	
7. 人に勝つことより, 自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う	-0.18	0.36	-0.16	0.59	0.27	
14. 結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい	-0.33	0.40	-0.03	0.52	0.22	
1. いつも何か目標を持っていたい	0.06	0.02	0.03	0.03	0.80	自己育成因子
21. 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う	-0.17	0.35	0.00	0.23	0.69	
16. いろいろなことを学んで自分を深めたい	0.08	-0.09	-0.01	0.12	0.64	
10. 何でも手がけたことには最善をつくしたい	-0.17	0.17	0.20	0.20	0.61	

いる者「有」群と, そう示してはいない者「無」群の2群に分けた。すなわち, Q8とQ9は選択肢の1番を「有」, 2番を「無」の2群に分けて, Q16とQ19は選択肢の1番を「有」, 2番と3番を「無」の2群に分けて, Q17とQ18QとQ21は1番と2番を「有」, 3番と4番と5番を「無」の2

群に分けて, 因子得点の群別平均値のt検定を行った。

## 結 果

### 1. 因子分析と因子の命名

達成動機測定尺度23項目のバリマックス回転

Table 4 因子負荷量 (A短大)

項目	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>3</sub>	f <sub>4</sub>	f <sub>5</sub>	因子名
8. みんなに喜んでもらえるすばらしいことをしたい	0.77	0.22	0.03	-0.06	0.09	自我優越社会的幸福願望因子
11. どうしても私は人より優れていたいと思う	0.75	-0.10	0.22	0.32	-0.04	
5. 他人と競争して勝つとうれしい	0.63	0.00	0.34	0.02	-0.40	
9. 競争相手に負けるのはくやしい	0.62	-0.05	0.31	0.30	-0.41	
6. ちょっとした工夫をすることが好きだ	0.57	0.55	0.17	0.16	0.02	
10. 何でも手がけたことには最善をつくしたい	0.05	0.71	-0.03	-0.27	0.27	自我育成への実行衝動因子
23. こういうことがしたいなあと考えたとわくわくする	0.24	0.70	0.04	-0.03	-0.08	
16. いろいろなことを学んで自分を深めたい	0.16	0.65	-0.34	-0.16	0.13	
19. 今日一日何をしようかと考えることはたのしい	-0.06	0.63	0.14	0.14	-0.14	
3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい	-0.25	0.61	0.11	-0.13	0.07	
12. 何か小さなことでも自分にしかできないことをしてみたいと思う	0.51	0.59	0.20	0.06	-0.06	
14. 結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい	0.04	0.47	-0.47	-0.13	-0.07	
18. 成功するという事は、名誉や地位を得ることだ	-0.03	-0.14	0.77	0.25	-0.13	成功期待因子
22. 世に出て成功したいと強く願っている	0.24	0.35	0.74	-0.07	-0.14	
17. 就職する会社は、社会で高く評価されるところを選びたい	0.35	0.20	0.70	0.22	0.25	
20. 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う	0.35	-0.07	0.68	0.04	0.01	
2. ものごとは他の人よりうまくやりたい	0.21	0.46	0.65	0.27	-0.18	
15. 今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ	0.05	0.08	0.16	0.76	-0.21	自我育成と立身出世主義との矛盾因子
13. 勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けないためだ	0.35	-0.18	0.23	0.61	0.06	
21. 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う	0.13	0.40	-0.23	-0.62	0.22	
7. 人に勝つことより、自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う。	-0.18	0.01	-0.01	-0.81	-0.18	
1. いつも何か目標を持っていたい	-0.11	0.19	0.03	0.11	0.77	社会と個性との対立因子
4. 人と競争することより、人とくらべることができないようなことをして自分をいかしたい	0.01	0.37	0.08	0.31	-0.64	

による因子分析の結果、各短大において5因子ずつを抽出したことは、第1報<sup>7)</sup>で述べた。Y短大での第1因子を成功期待因子、第2因子を自己個性への愛着因子、第3因子を自我優越因子、第4因子を社会的幸福願望因子、第5因子を自己育成因子、A短大での第1因子を自我優越社会的幸福

願望因子、第2因子を自我育成への実行衝動因子、第3因子を成功期待因子、第4因子を自我育成と立身出世主義との矛盾因子、第5因子を社会と個性との対立因子と命名した (Table 3, 4)。

## 2. 因子得点とアンケートとの関連

Y短大とA短大との因子構造の差を認めたのと

Table 5 有意差を認めるアンケート項目

項目 \ 因子	Y 短 大			A 短 大		
	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>4</sub>	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>5</sub>
Q16. 誇り			** t = 2.93 有 > 無	* t = 2.51 有 > 無		
Q17. やりがい	* t = 2.20 有 < 無				** t = 3.00 有 > 無	* t = 2.06 有 < 無
Q21. 看護職を継続	* t = 2.08 有 < 無					
Q8. 家族に看護職		* t = 2.24 有 > 無				

\* : p &lt; .05 \*\* : p &lt; .01

同様に、各因子における得点の平均値において、アンケートへの関連にも差が認められた。因子得点の平均値を t 検定すると、Table 5 のような結果になった。すなわち、Y 短大の第 1 因子では、Q17 のやりがいに関して「有る」と答えた者は「無い」と答えた者よりも低値を示し、一方、Q21 の「看護職を継続する意志」の項目に関して「有る」と答えた者にやはり低値が見られた。第 3 因子では、家族に看護職がいることとの関連において、「有る者」の高値が観察された。同じく第 4 因子で Q16 「誇り有る者」に有意に高値を示していた。

A 短大においても、第 1 因子では、Q16 「誇り有る者」に有意に高値を示し、Q17 「やりがい」では、第 2 因子に有意に高値を、第 5 因子に有意に低値を示していた。

## 考 察

Y 短大と A 短大との因子構造の違いは、第 1 報<sup>7)</sup> に述べたごとくである。

因子得点とアンケートとの関連において、第 1 因子つまり成功期待因子について Y 短大では、その値の大きい者ほど、「やりがい」や「継続」の意欲を持たない者が多く認められた。すなわち、Y 短大における「成功期待」とは「やりがい」や「継続」の意欲に反するものであるといえる。これに対して A 短大では、「やりがい」が第 2 因子と第 5 因子に影響を与え、第 2 因子が高値な者ほど「やりがい」を持ち、第 5 因子が低値な者ほど「やりがい」をなくしていた。このことは、両短大の「やりがい」意志が傾向を異にし、むしろ A 短大では

「やりがい」を「自我育成への道程」あるいは「社会と個人との対立」のなかに捉えているといえる。

また、A 短大では自我優越社会的幸福願望期待の大きい者に、むしろ「誇り」をもって学ぶ姿勢を認めることができた。これは Y 短大の第 4 因子にみられるところであるが、全体に対する奉仕の意識が「社会的幸福願望」の中に存在したものと考える。

Y 短大の学生の家族に看護職のいる家庭では、「自我優越」の強さを示していたが、A 短大においてはこの傾向はみられず、家族的優越性が地域的意識に介入する余地を思わせるものがあつた。

このように、学生の背景の群別特性による意識の違いをふまえて、教育および指導方法を工夫していく必要性が示唆される。

## 文 献

- 1) Murray, H. A. : Explorations in Personality. Oxford University Press, 1938.
- 2) McClelland, D. C., Atkinson, J. W. & Clark, R. A. : The achievement motive. Appleton-Century, 1953.
- 3) Atkinson, J. W. & McClelland, D. C. : The projective expression of needs II , The effect of different intensities of hunger drive on thematic apperception. Journal of Experimental Psychology 38, 643-658, 1948.
- 4) Lowell, E. L. : The effect of need for achievement on learning and speed of performance. Jour-

- nal of Psychology 55, 59-66, 1952.
- 5) Atkinson, J. W. : Motivational determinants of risk-taking behavior. Psychological Review 64, 359-372, 1957.
- 6) Bending, A. W. : Factor analytic scales of need achievement. Journal of General Psychology 70, 59-67, 1964.
- 7) 坂本知子, 松永保子, 内海滉: 看護学生の達成動機に関する研究 (第1報) - 2 大学間の達成動機の因子構造の比較-. 足利短期大学研究紀要 19(1), 1999 (3月発刊予定).
- 8) 堀野緑: 達成動機の構成因子の分析. 教育心理学研究 35(2), 52-58, 1987.
- 9) 堀野緑, 森和代: 抑うつとソーシャルサポートとの関連に介在する達成動機の要因. 教育心理学研究 39(3), 66-73, 1991.
- 1998. 11. 10. 受稿, 1999. 1.8. 受理 -

## 要 約

Y短大看護科の1年次学生79名とA短大看護科の1年次学生40名を対象に達成動機の測定を行なった。達成動機測定尺度の23項目を7段階に数量化して入力し、バリマックス回転による因子分析を行い、各短大において5因子ずつを抽出した。今回は、これらの因子得点と背景との関連を調べた。

成功期待因子についてY短大を見ると、その値の大きい者ほど、やりがいや継続の意欲を持たない者が多く認められた。逆にA短大では自我優越社会的幸福願望期待の大きい者に、むしろ誇りをもって学ぶ姿勢を認めることができた。また、A短大での自我育成への実行衝動因子の値の大きい者には、やりがいを肯定する者が多く見られた。Y短大の学生の家族に看護職がいる家庭では、自我優越の強さを示していたが、A短大においてその傾向はみられなかった。

キーワード: 看護学生, 達成動機, 看護教育, 看護学生の背景